生徒の英語力を高めるには教師の「こだわり」が不可欠

宮崎　貴弘

1．生徒に力がつく授業の「共通点」とは

生徒に英語の力をつけるには，授業のルールが不可欠だ．授業のルールを徹底していると，生徒は意欲的に思考し，英語で表現することに躊躇しなくなる．さらに，生徒同士が学び合う互恵的な関係が生まれる．安心・安全の環境が確保されるからだ．

4月の生徒が目を輝かせていた頃と違い，どんよりとした授業の雰囲気を感じることはないだろうか．その一因は，授業のルールが守られていないことにある．教師が意図せず伝えている指導(ヒドゥンカリキュラム)によるものである．教室で「何でもあり」がまかり通り始めると，「程よい緊張感」がなくなる．程よい緊張感は，教師の「こだわり」(ルール)を徹底することで生まれる．

ここで確認しておきたいのは，こだわりには「授業マネジメントに関すること」と，「英語の力をつけるためのもの」の2つがあるということだ．前者は，ノートの使い方，持ち物など，授業を受けるためのルールといえる．後者は，英語の力をつけるために外せないことである．

筆者は4月最初の授業で「7ルール」(高校1年生版)を提示している．

❶ チャイムが鳴る前に，準備運動をしておく
❷ 家庭での復習で英語力を高める
❸ 1年時は，「発音」と「即座に反応すること」を習慣にする
❹ 友達や先生の話に，普段から適切な反応を示す
❺ 50分間，英語を体に吸収させるように「読み」，「聞く」
❻「たくさん話す，書く」をモットーに表現する
❼ コミュニケーションでは「相手への気配り」を大切にする

これらのルールを提示するときにはコツがある．

2．納得を引き出すための「理由と体験」とは

生徒の納得を引き出すためには，「理由と体験」を提示するとよい．

ハーバード大学のエレン・ランガー教授の実験では，コピーの順番待ちをしている先頭に行き，先にコピーをさせてもらうようお願いをした．「すみません，5枚なのですが，先にコピーをとらせてもらえませんか？」よりも，「すみません，5枚なのですが，急いでいるので，先にコピーをとらせてもらえませんか？(下線筆者)」の方が，承諾率が非常に高まった．このように，「理由」を添えると納得してもらいやすい．

また，先述の「7ルール」を体感させる．例えば，❶「準備運動」や❷「家庭学習」については，諸説はあるが外国語習得には約3,000～5,000時間が必要なことを伝える．これだけではイメージが湧かないので，中学校3年間の授業時間を計算してもらう．約350時間(50分×週4回×35週×3年間)になる．さらに，高校3年間の英語の授業時間を足しても，1,000時間に満たない．そこで，どのように英語の学習時間を増やすかを考えさせる．

3．発音の大切さを納得させる指導とは

❸「発音」については，1年時から指導をしておく．生徒は，音読が棒読みになりがちである．また，a, the, on, of のような音声変化の影響を受けやすい単語も，明瞭に発音することが多い．発音指導は，リスニング力を高めるためにも大切だ．

発音の重要性を体験させる一例はこうだ．教師が“first of all”を発音して，聞き取った英語をペアで確認させる．生徒は，たいてい festival や fast ball と言う．そこで黒板に下線を3つ書き，“I said three words.”と言う．すると，教室にどよめきが起こる．さらに，3つとも中学生が知っている単語であることを伝え，再度発音をする．生徒が認識し

ている音と，実際に発音される音にズレがあるから聞き取れない．生徒たちがリスニングを苦手と感じる1つの原因である．

答えを伝えると，生徒は驚きの表情や，誇らしげな表情で友達と顔を見合わせる．そして，音声がどのように連結しているかを確認し，発音練習をする．ペアで発音を披露し合うと，英語らしい発音ができることに表情が緩む．

最後は，“first of all” を含むまとまりのある英文を教師が話す．ALT に話してもらってもよい．今まで festival にしか聞き取れなかった音が，聞き取れるようになったことを体感してもらう．その上で，発音の大切さとリスニング力の関連を伝えて「意味づけ」をする．

４．発音指導を継続する方法とは

ルールは徹底すると書いた．普段の発音指導をどうすればよいだろうか．勤務校の1年では，単語帳『LEAP Basic』（数研出版）を使用している．発信に必要な重要ポイントが用例に詰まっている．そこが，本校の ALT も気に入っている理由の1つだ．授業ではその用例を使い，生徒への学習を促している．

授業では週1回，定着度を確認する．生徒は4人グループごとにチェックを受ける．教師は，指定した範囲から用例の日本語をランダムに5つ出題する．4人ともが，即座に正しく答えるごとに点数を与える．

口頭でチェックする理由は，発音やイントネーションも合格の基準に入れるためである．アプリで音声を聞けるので，それを使って練習することを徹底する．授業では，生徒だけでは気づかない音声変化を取り上げて練習する．

紙での小テストと違い，グループでの口頭チェックはその場でフィードバックができる．また，グループメンバーに迷惑をかけないように，責任を持って家で勉強してくるようになる．小テストは，点数が悪くても，本人しか困らない．グループで協力し，全体の場で答えるという責任を与えることで「程よい緊張感」が生まれる．

よく，生徒に恥をかかせたくないからという理由で，人前で発表をさせないと耳にする．そうであるならば，人前で発表できるように指導をしてあげたい．「できないから，させない」ではなく，できるように指導するのが教師の役目であると考える．

口頭チェックでは，初回に基準がブレてしまったり，基準を下げてしまうと，生徒たちは練習をしてこなくなる．教師の「こだわり」がブレない限り，初回は点数が取れなくても，どのグループも満点を取れるように練習をしてくる．

５．生徒が目を輝かせるやり取りの場面とは

授業計画には，生徒とやり取りをする10分間をあらかじめ設定しておく．ルール❹「適切な反応」や❻「たくさん話すこと」に関わる普段からできる指導である．

指導案を見ると，分単位で刻まれた活動が，次々に展開される授業がある．その中でも，私が思わず膝を打った瞬間は，教師が生徒に様々な発言をさせつつも，自然と本時のねらいにつなげていたときだ．

もちろん，教師が授業の流れを考え，それに沿って授業を進める．しかし，生徒に思考させて，意見をクラス全体で共有する時間は設定されているだろうか．時間に追われるような授業計画だと，教師はどうしても先に進めることに関心が向く．生徒に問いかけて発言させる場面でも，先に進みたい気持ちが優先されると，「正解」を答えそうな生徒を指名してしまう．そして，“That’s right!” や “Good!” と言って先に進んでいく．こればかりが続くと，生徒は正解を探し求めて考えるようになり，自信がない（間違いたくない）ときには，発言をしなくなる．このような，教師が評価ばかりをする場面は IRE 構造と呼ばれている．

IRE 構造とは，次のようなことだ．

Teacher（T）: What’s the answer for No. 2?
Student（S）: Apple.
Teacher（T）: Good.

教師による問いかけ（initiation），生徒の発言（response），そして教師の評価（evaluation）の構造だ．一見コミュニケーションの場面のように見えるが，教室特有のやり取りであり，学習指導要領で求められている「実際のコミュニケーションにおける活動」とは異なる．次の例も同じく IRE 構造だが，なぜ教師が次のような評価をしたのか，考えてみてほしい．

T: How was your weekend?
S: My dog died.

T: Good.

このようなやり取りは起こらないだろうが，教師が「正解」や「英文の正しさ」，「本時の目標である文法項目を使えている」といったことにだけ関心を持っていると，このような評価をしがちである．

一方，IRF 構造がある．次のようなやり取りだ．

T: How was your weekend?

S : My dog died.

T: Oh ... . How old was your dog?

先程の例と違い，最後の教師の発言は，生徒に対するフィードバック（feedback）や探求（follow-up）である．IRE 構造と違い，教師は生徒の発言内容に関心を持ち，生徒はやり取りの楽しさを感じるようになることがわかるだろう．

みなさんの教室では，IRE 構造と IRF 構造のどちらが多いだろうか．

6．10 分間で起こるやり取りとは

やり取りをする 10 分間では，次のようなことが起こる．ALT とのティーム・ティーチングの授業で，slang という言葉が出てきた．高校 1 年生の生徒たちは困った表情で周りと顔を見合わせていた．授業を進めることだけに関心を持っていれば，意味を伝えて次に進むだろう．しかし，意味を知っていそうな表情の生徒が数人いたので，Please tell him（ALT）some Japanese slang words. と促すと，生徒から「草」「ぴえん」「推ししか勝たん」「ワンチャン」「あせあせ」など出てきた．次第に，生徒たちは slang の意味が分かりだし，周りと確かめ合う．

日本語の俗語を理解できていない ALT に，生徒たちは必死に英語で伝えようとする．身振り手振りを交えながら，どんな場面で使うか，どのような意味かを伝えはじめると，教室中が爆笑で包まれる．

最後は，ALT が理解したことを英語で伝え，実際に一人二役で演じながら「あせあせ」などを使って生徒に使い方が合っているかを確かめる．

水を得た魚のように生徒の表情が生き生きする．予定調和（教師が準備したものを順にこなしていく）では，生徒はワクワクしない．教師が意図していなくても，敷いたレールの上を歩かそうとしていることを，生徒は必ず気づいている．

遊び心を生かした学びの瞬間，子どもたちは ALT に伝えたいという思いで自然と英語を使う．ALT も「今日の授業は楽しかった」と言うのは，生徒と言葉を使ってやり取りを楽しんだ授業なのだ．

7．教師がコミュニケーションの姿勢を示すとは

ルール❼「コミュニケーションの姿勢」を提示したなら，教師も生徒に対して適切な姿勢で接したい．教師と生徒という立場の違いはあるが，人と人が接することには変わらない．

授業では，教師は明るく振る舞うほうが良い．教師の明るさは，言葉に表れる．

×これをしておかないと，力がつかないよ．
○これをしておくと，力がメキメキつくよ．

同じような内容でも，使う言葉によって印象がガラッと変わる．また，教師によっては，生徒のできていないことを探す習性があるようだ．言い換えれば，生徒の良い面を見つけるのが苦手な教師がいる．批判や否定すべきことは，探せばいくらでもある．しかし，欠点を見つけても，どう改善すればよいかを伝えたり，指導したりするのが教師の役目ではないだろうか．

たとえがよくないが，国会中継も批判の言葉がよく飛び交っている．しかし，「その法案では，ここが問題である．そこで，このようにしてはどうか？是非検討していただきたい．」と言えば，建設的な意見になる．「批判，否定をしたければ，代案を示せ」が鉄則である．

生徒に投げかける言葉も同じである．生徒のできていない点を見つけたなら，どうすればできるようになるかを伝えるのが教師の腕の見せ所だ．

また，複数のクラスを担当していると，クラスによって雰囲気の違いに気づく．同じ授業をやっていても，クラスによって生徒の反応が異なる．授業がうまくいかない理由を生徒やクラスの責任にせず，生徒に合った授業のやり方を考えてみることが大事だと考える．

筆者も，反応があまりないと感じるクラスを担当したことが多くある．あの手この手と試みた中で発見したことは，「反応が薄いクラス」という考えで接していると，生徒を褒める（認める）機会が少なくなりがちということだ．これは，教師の偏見や思い込みによるものかもしれない．

8．教師が生徒を褒める(認める)とは

反応が薄いと思い込んでいたクラスで，リテリングの口頭テストを行った．大多数が予想を上回る出来だった．そして，次のように伝えた．

「高校入学して1ヶ月で『コミュニケーションの手段』のメリット・デメリットについて英語で説明できていることは，当たり前ではないのですよ．すごいことです．今回のテストで10点(満点)だったのは，●●さん，●●さん…(クラスの半数以上が該当するようにリテリングの指導をしておく)．○○さんと○○さんは9点で，もう少しで10点になります．イントネーションができるようになると満点．あとの人たちは，6～8点です．明らかに練習不足と思った人は，6点です．ただ，再度チャレンジしたい人はおいで．他の人の発表を見て，『悔しい』という気持ちになった人がいることが表情から見て取れます．その悔しいという思いはすごく大切なこと．来週月曜日に待っています.」

また，英語を使ってペアでやり取りしている様子を観察して，個別に次のように話しかける．「今までだと，単語の羅列でしか話せてなかったよね．今日は，文章で話せていることが多かった．すごい進歩.」

生徒を褒める(認める)コツは，以前との変化を認めることだ．今までの様子と比較して伝えることで，教師が気にかけて見てくれていたことを生徒は感じる．生徒の変容を捉え，褒める(認める)機会を掴むには，観察以外の方法がある．

9．生徒の変化を捉える方法とは

ある生徒の「振り返り」を読み比べてほしい．

(4月23日)前よりも発音が上手になったと思うし，スラスラ読めるようになれた気がする．でも，何も見ないで話すとき，文にならなかったり，文にとらわれすぎて発音に気をつけられなかったりするので，きちんと文を作れて，発音も英語らしくできるようになりたいです．友達と英語で話すとき，いつも文が出てこなくて日本語が混ざってしまうから，それを直すためにもっと単語力が必要なのかなと思いました．だからこれから単語帳などで単語をもっと知ろうと思います．

(4月30日)名詞だけのマッピングを見て，相手に伝えようとするとき，その主語と動詞がすぐに分からなくて固まってしまったから，頭の中で出てきた単語をとりあえず出してつなげていくことを意識して頑張りたいと思います．少しずつ英文を覚えることは繰り返すうちに増えていったと思うので続けたい．覚えることに集中すると発音が悪くなってしまうし，自分で考えて文を作るときも，単語で出てきてしまって発音を考える余裕もなくなってしまうから，どうしたらいいか分かりません．やろうとすると遅くなってしまいます．

(5月14日) Lesson 1を通してすごく発音も意識してよくなったし，今までの日本語英語みたいな感じにならないようになりました．英文を作るとき，いつもなら頭に日本語を浮かべて英語に直していたけれど，今は英単語を浮かべてそれを並べるという作業が出来るようになりました．単語帳などでほぼ毎日listeningをしているのがこんなにすぐに実感できるんだなと思いました．

みなさんは，どのような変容に気づくだろうか．この生徒が英語を発話するプロセスをメタ認知できており，また自分の変容を記述できていることに驚く．褒めるべきポイントの1つである．1枚の用紙に振り返りを複数回書けるようにしておくと変容を掴みやすい．

みなさんの「授業のこだわり」は何だろうか．

参考文献

中島和子(2006)．「母語以外の言葉を子どもが学ぶ意義：バイリンガル教育からの視点」『BERD』No.5，18-22．ベネッセ教育研究開発センター．

Hall, J. K. (2001). *Methods for teaching foreign languages : Creating a community of learners in the classroom*. NJ: Prentice.

US Department of State. *Foreign Language Training*. Retrieved June 4, 2021, from https://www.state.gov/foreign-language-training/

(神戸市立葺合高等学校 教諭)